

中リハ通信 06 「臨床実習について」

理学療法士になるためには、理学療法学科のある専門学校や大学に入学し、所定の授業を受ける必要があります。その中のひとつに「臨床実習」があります。



臨床実習の主な内容は、病院や施設など実際の臨床現場へ数週間通い、患者さんや利用者さんとの理学療法に携わります。

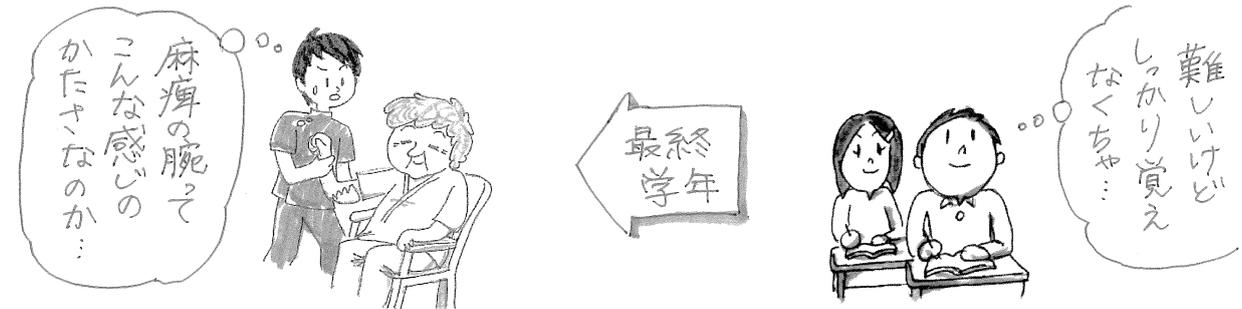


臨床実習に出向く学生は最終学年に進級する前に、解剖学、生理学、運動学といった基礎医学から、整形外科学、脳卒中などの神経疾患のような専門医学を学んできました。

臨床実習では、学内で学んできた知識を基盤とし、実際の臨床現場で患者さんや利用者さんのために適応できる、実践的な能力を養う場となります。

学生の多くは、臨床実習に出て初めて、患者さんの生活の苦労などを目の当たりにします。

例えば脳卒中患者さんの手足の動かしづらさを初めて肌で感じ、自由に手足が動かせないことがいかに大変か、理学療法士が患者さんにできることは何かあるのか、といったことを実感します。それによって学生は、さらに勉強の必要性を感じるようになります。



歴史のある当校は、非常に多くの卒業生を送り出していますので、愛知県内の多くの病院・施設で卒業生が活躍しています。そのため臨床実習を引き受けてくれる病院・施設が多く、アパートを借りて県外の実習地へ通うということはなく、ほとんどの学生は自宅から通っています。



いずれの学生も、臨床実習を終えて学校へ登校するようになると、ひと回りもふた回りも大きく成長してきた印象を受けます。貴重な経験を経て、理学療法士になるための心構えができたようです。

